

ノートルダム清心女子大学 2022年度年度計画

ビジョン：1. 建学の精神、教育理念の浸透促進	
中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ①教職員の大学行事への参加の促進 ②設立母体のシスターによる特別講義等の実施計画・開講 ③設立母体のシスターによる講義の常設 ④5 学校園の相互交流を促進する
2022年度 年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年度から自己点検・自己評価及び外部評価を実施しているが、2022年度も教育の質保証として、点検評価することにより建学の精神および教育方針を明確化し、それを実現するカリキュラムや行事・課外活動、入学者選抜等の充実を図る。 ・来日シスターによる大学での常設講義を開講する。 ・附属小学校・附属幼稚園保護者が参加する「カトリック教育の会」を運営し、学校園の相互交流を実施する。 ・『ノートルダム会シスター来日50年史』のデジタル版配付。 ・外部アドバイザーの提案等に基づきメディア戦略を設計し、実行する。積極的なプレスリリースの実施を継続する。 ・学長メッセージの発信の継続。

ビジョン：2. 教育・研究の質の向上	
中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ①SD、FDの充実 ②教職員評価制度の導入検討、実施 ③事務職員の適切な異動の促進 ④大学、学部、学科、研究科、専攻の三方針（3P）の具体化と進展に向けたSD、FDの活性化 ⑤大学の教学IR体制の充実と三方針のPDCAサイクルによる進展 ⑥大学・大学院接続の促進による大学院教育の活性化、英語英米文学専攻博士後期課程設置 ⑦大学教員の准教授・教授昇任における博士の学位取得の条件化 ⑧個人自己点検・自己評価アンケートの導入
2022年度 年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ・授業効果評価システムの運用開始 ・教職員評価制度の運用開始 ・大学博士取得の教授・准教授への昇任の条件化の運用 ・教職員対象の個人自己点検・自己評価アンケートデータの可視化 ・留学、語学研修、海外文化研修、海外ボランティアなど、学生の海外での学びの場の充実、および海外ばかりでなく国内における国際交流の学びの場の充実をめざして国際交流センターの機能を強化する。 ・カトリックの理念をふまえ、誰一人取り残さないSDGsの理念の達成を進めるような社会貢献活動、及び関連教育・研究に取り組む。特に、SDG-UP（国連大学SDG大学連携プラットフォーム）の活動、SDGs入門授業（「国連SDGs入門」）の構築を幹事大学として牽引していく。 ・建学の精神を学則に明示したことを受けて、大学全体のポリシーの策定に着手する。それをふまえて学部のディプロマポリシーを設定し、そこから、カリキュラムポリシーを検討し、アドミッションポリシーへと繋げていく。 ・自主学習アンケートの実施について検討する。

ビジョン：3. 教育研究環境の充実	
中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ①ICT (manaba folioなど) を活用したe-ラーニング施設充実の促進 ②卒論指導の強化、卒論生独修用の共同ゼミ室(教室)の指定 ③産官学、地域連携による体験型学修、研究に対する組織的支援 ④健康に配慮した学生食堂の充実
2022年度 年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等の活用の効果を調査し、2023年度以降の運用に活かす。 ・卒論指導の充実、独修の共同ゼミ室の効果、利用、運用等についての成果を調査し、2023年度の運用に活かす。 ・インクルーシブ教育研究センターを中心に施設設備のバリアフリー化を含め、障害のある学生に対する合理的配慮の提供等を充実させ、共生社会の実現に寄与する。 ・本学の歴史的な建造物や植栽と将来を見据えた戦略的な建築物やパブリックゾーンなどの基本方針を定める。そのために、学長のリーダーシップのもと、施設企画管理部だけでなく組織的に取り組む。2020年に発足した選定委員会を基礎に教職員で構成する適切な検討体制を確立する。広報室、入試広報部との連携を密にして、そのマスタープランを学内外に発信し、受験生や留学生に対してわかりやすく公表する。

ビジョン：4. 入学生の十分な確保	
中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ①定員管理を適正に行い、入学定員の充足率を100%とする。 ②大学及び各学科の教育の特長について、継続的かつ積極的に広報する。 ③少子化をはじめとする社会情勢の変化を踏まえた入学生確保の方策を中期計画に組み入れる。 ④学園間の連携を強化して入学生確保に資する。
2022年度 年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜制度改善の効果をデータに基づいて検証し、その取組で強化すべきことを明らかにし、次年度以降に活かす。 ・3年、6年後を見据えた将来像の策定を開始する。 ・新教育課程に対応した入試科目等を決定する。 ・入学者選抜の見直し、変更点 <ul style="list-style-type: none"> ・学校推薦型選抜に、2教科(国語・外国語)の筆記試験を課す併願制を新設 ・指定校制度の全面的復活 ・一般入学者選抜における選抜方法、出題方法の変更(2教科型の新設、記号選択式、一部記号等の記入あり) ・マークシート採点方式の検討 ・共通テスト利用選抜について、2月に5教科型及び2教科型を、3月に2教科型を実施 ・2025年度を見据えた、個別学力検査における出題科目等の決定(特に、地歴・公民科) ・姉妹校との連携の強化(総合型選抜姉妹校併願の新設) ・新たな作問体制の構築 ・次年度の選抜変更点を年度内に決定し、3月オープンキャンパスで概要を周知するとともに、6月に入った段階で高校訪問を開始し、選抜区分を増やすことによる受験のしやすさについて広報する。 ・オープンキャンパスは、タイムリーな情報を提供できるよう、各回で内容の重点化を図り、学生と高校生とが触れ合うことのできる場を増やす。広報・学生募集小委員会の活動を見直し、オンラインオープンキャンパスの実施を検討するなど、コロナ禍における各学科独自の取組を促す。事前研修を充実するなどして、キャンパスナビゲーター自身の更なる成長を促す。(入試広報部) ・大学院についても継続的に安定した入学者が確保できるよう、より効果的な方策を検討していく。

ビジョン：5. 進路・大学生生活の支援の強化	
中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ①本人の意向が達成されるように進路支援を最大限の努力で行う。 ②大学内のアメニティーの充実と障害のある学生支援のインフラ整備を図る。 ③メンタルヘルス支援および多様な学生（トランスジェンダーなど）の受け入れ態勢の充実 ④課外活動に対するきめ細かな支援
2022年度 年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ・過去2年間の進路実績の達成レベルを踏まえ、さらなる実績の向上に努める。 ・整備した厚生施設、アメニティー、課外活動施設に関する使用者の評価を調査する。 ・多様な学生（トランスジェンダーなど）の受け入れに関する指針の決定と体制の整備 ・2020年度から実施された高等教育の修学支援新制度への対応とともに、拡充を図った奨学金制度等により、経済的に困難な学生の支援を継続する。 ・課外活動については、各クラブの新人部員獲得を促すとともに、コラボレーション企画を通じてクラブ同士の活動や交流の活性化を促進させ、コロナ禍にあっても学生の課外活動に対する意欲を高めていくことができるよう、活動の場を維持していく。また、休眠しているクラブの整理等に努めつつ、クラブの積極的な昇格のため新ルールの土台を整備する。 ・キャリアサポートについては、3年生向けのゼミ単位でのガイダンスをさらに充実させ、1年生向けのガイダンスについては、各学科にすでに提案済みである。「なんでも相談コーナー」については、ラウンジ内にキャリアサポートセンターが存在する利点を活かしながら、今後も出来る限り多くの日程で実施する予定。

ビジョン：6. 財務状況の改善・強化	
中期計画	<ul style="list-style-type: none"> ①財務状況について、私学事業団による経営指導を受ける ②財務指標の望ましい値の達成に向けた具体的な経年計画の作成 ③財務状況の改善・強化の経年計画の教職員への説明会の実施 ④財務状況の改善・強化の経年計画の実行
2022年度 年度計画	<ul style="list-style-type: none"> ・収支バランス、収支差額10%増の目標に沿って実施する。 ・2020年度入学者から学費改定、2021年度入学者から定員増を行い、各学科の魅力を高めるなどして入学定員の確保に努めてきたが、入学定員の確保に至っていないため、2025年度までの人事を凍結、2021年度対比で教育研究費及び管理経費の10%削減等により財政状況を回復に向かわせる礎を築く。

ビジョン：7. ステークホルダーへの情報公開と連携の促進

中期計画	<p>①教職員へは、法令、守秘に触れるものを除いて、関係するすべての情報を公開する。</p> <p>②学生、保護者、同窓生、大学関係者、このほかのステークホルダーへは公開すべき情報、将来像、教育・研究に関する情報をHP上で公開する。</p> <p>③エンrollmentマネジメントをシステム化する。</p>
2022年度 年度計画	<p>・本学の取り組みや、学生の生き生きとした活動、教員の活発な研究活動や社会貢献等の情報を発信することによって、本学の魅力発信を充実する。大学広報、学生募集広報担当部署が連携し、ホームページ、SNS、各種広報冊子等の本学情報媒体を最大限に活用するとともに、パブリシティにつながるようなメディアへの情報発信を拡大し、さらなる情報発信力の強化を目指す。</p> <p>・本学情報を効果的に発信するために、学内の情報収集から発信、保存、活用までの学内情報流通整備を進める。</p> <p>・オープンキャンパスの参加者と保護者、卒業生への本学園、大学に関する情報誌の定期的な送付を検討する。</p>